



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/22 (月)	▲ 200	+ 88,100	+ 87,900	短国発行償還 (3M・1Y) 国債大量償還 利払い			国際決済銀行 (BIS) イノベーションサミット (25日まで)
3/23 (火)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				日: 日銀営業毎旬報告 (3月20日現在) 月例経済報告 (3月) 米: 経常収支 (4Q) 英: 中銀総裁講演
3/24 (水)	トン	+ 1,900	+ 1,900		共通担保 (全店) ▲ 3,500		日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月20・21日分) 米: パウエルFRB議長、イエレン財務長官 公聴会証言
3/25 (木)	▲ 1,000	+ 31,000	+ 30,000	短国発行償還 (6M) 年度末諸払い	新型コロナ ▲ 99,900		米: バイデン大統領記者会見、GDP (4Q) 新規失業保険申請件数 (20日終了週) ユーロ圏: EU首脳会議 (26日まで) ECB経済報告
3/26 (金)	▲ 1,000	▲ 14,000	▲ 15,000				日: 東京CPI (前年比 3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初15日に国債買入オペ、CP等買入オペがあり先週末対比+1兆200億円の482兆9,500億円から始まった。その後は17日の国庫短期証券買入オペ、18日の国債買入、CP等買入オペ、19日の保険料等交付金の支払い等週を通して増加要因が多く、497兆4,200億円で越えた。無担保コールON物加重平均金利は、積み最終日となる週初15日には調達サイドが様子見姿勢となり先週末対比△0.003%の△0.016%となった。新積み期に入ると様々な業態の調達意欲が週末にかけ徐々に強くなり、19日に△0.010%まで上昇した。日銀は18日、19日に開催した金融政策決定会合で、金融緩和の長期化を見据えた政策修正を決定した。イールドカーブ・コントロールの大枠を維持した上で長期金利の変動幅を±0.25%程度と広げた他、短期金利・長期金利を必要な局面で機動的に引き下げに動けるように「貸出促進付利制度」を新設した。来週の主な予定は、国内で日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月20日、21日分) の公表 (24日)、東京都区部消費者物価指数 (CPI) の公表 (26日) などがあり、海外では米バイデン大統領記者会見、米GDP (4Q) の公表や、EU首脳会議 (いずれも25日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
CP 3M	△0.060 ~ 0.000

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.08%台の出会いから始まり、週を通して△0.085%~△0.075%の狭いレンジで推移した。短国1Y、3Mの発行が重なる19日の取引でもレートに変化は見られなかった。SC取引は2年409~422回債、5年135~146回債、10年331~361回債、20年164~175回債、30年59~69回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

<TDB>

17日の1Y980回債(3/22償還)の入札は、最高落札利回り△0.1288%(前回債△0.1221%)、平均落札利回り△0.1298%(同△0.1221%)となり、入札後△0.14%近辺の出合が見られた。18日の3M981回債(6/28償還)の入札は、最高落札利回り△0.0986%(同△0.0930%)、平均落札利回り△0.1009%(同△0.0964%)となり、入札後△0.104%近辺の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.105%近辺で取引された。6M物が△0.12%近辺、1Y物が△0.139%近辺で少額の出合が見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約2,750億円で、週間償還額 (約8,700億円) に対し大幅に下回った。発行市場は、有利子負債削減のニーズが強く、期落ちを迎える銘柄が多く見受けられた。引き続き、発行の少ない期越え物に対しては投資家が強いビッドを入れていた。発行残高は先週末の24兆6,478億円から、18日時点で24兆3,997億円に減少した。15日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.045%・平均落札レート△0.027%と前回 (按分レート△0.036%・平均落札レート△0.031%) 比で按分レートが低下し、平均落札レートは上昇した。発行レートは、△0.06%~0%近辺での出会いであった。来週の週間償還額は、約1兆8,400億円程度となっている。発行市場は、決算期末要因のため、今週同様償還が多く、閑散なマーケットを予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出会いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では強いマイナスレートでの出会いを予想する。26日に、CP等買入オペが6,000億円でオファーされる予定となっている。